

HOME > コラム > コラム

## コラム

# 認知症全般知識に役立つコラム

認知症学会専門医 占部 新治先生による、「認知症全般知識に役立つコラム」です。第1～第4 金曜更新!

第4章 環境の話 第2節 社会環境  
2項・高齢者に厳しい社会環境

## 親切的な売り場を作って経済行為を楽しめる工夫を

コンビニやスーパーの売り場は、商品ごとのブロック分類の基準が明確でなく、どこに行けば希望の商品があるのか店ごとに違います、高齢者にはわかりづらく、尋ねる店員さんもなかなか見当たらず、レジの方も忙しそうに仕事をされているため聞きづらい状況で、結局は分らずに店を後にする残念な結果となっています。今や高齢者が大半を占める日本で、スーパーが主体の店舗では、商品の分類ブロックが店ごとにまちまちで、書いてある表示版も字が小さく上の方にあるため、視力低下の高齢者には不親切です。これでは街は高齢者を歓迎していないと、受け取られても仕方がないと思います。席を譲り、高齢者の荷物を持ってあげた日本の「おもてなし」のころは少し消えかかっているように感じます。これは、店舗やスーパーやコンビニのちょっとした努力や、行政指導で解決する問題と思われます。是非努力して頂いて、買い易い、入り易い、尋ねやすい「おもてなし」のある商店、商店街に変えてほしいものです。これで、高齢者は、出掛けて行って、原材料を買って、調理を楽しみ、会話を楽しみ、お金をゆっくり勘定して経済行為を遂行し、身体と精神の健康を取り戻し、認知症の発生と進行予防をすることに繋がっていきます。

## 扱いが困難な通信環境が不安な心を産む

---

通信手段の変遷も著明で、高齢者の方では固定電話が通信手段でした。それが、携帯になりスマートフォンになり、小型化して文字盤が液晶画面でおまけに小さい文字で読みづらく、番号を押しするところも小さすぎて、視覚不良で手指操作の巧緻性がよくない高齢者では扱いが困難となり、認知症者では操作困難な代物で扱いにくいものになっています。徐々に社会の変化が通信手段の複雑化を進めて、認知症患者、高齢者に疎外感を感じさせ、通信手段で確実に蚊帳の外へと追いやっている変化が起こっています。

このため社会情報の供給が高齢者には行き渡っていない状況にあり、社会の変化が確実に伝わっていない状態が、環境によってつくられています。そのため諸事情に疎く、今までの生活を維持することが、理解困難や情報不足で諦めざるを得ないところに来ていて、活動性の低下や「分からない事ばかり」が不安なところを産んで、高齢者を孤立から認知症への道を歩ませています。